



管理事務 鈴木 隆史

この度、縁あってフクロモモンガのオスの子を引き取る事になりました。雑食で木の実、昆虫、果物、ミミズ、なんでも食べます。食欲旺盛のまま食べさせるとモモンガのアイデンティティでもある、飛膜を使った滑空ができなくなるそうなので、気を付けて生活しています。飛ぶ姿が早く見たいです。

お知らせ

人間ドック・脳ドック・大腸ドック・肺ドック・認知症ドック
受付中！詳しくはスタッフまでお気軽にご相談ください。

院長の巻頭言

う だるような暑さが続いています。皆様はご健勝でいらっしゃいますか。それにしてもこの暑さは鬱陶し過ぎてこの世にいることが嫌になりますね。WHOは地球沸騰化の時代を迎えたといっていました。この灼熱の嵐は断末魔といってもいいような恐ろしさです。この暑さの中でも新型コロナは第13波を迎えて飯田市でも密やかに流行しています。もはや新型コロナは、夏と冬に流行することは常識となりました。

コロナとはもともと天文学用語。太陽の表面温度は約6000℃ですが、これに対して、表面から2000キロメートル上空の大気層コロナは100℃以上という極端な高温。通常の認識で言えば熱源に近いほど熱く、熱源から離れば低温になります。なのに太陽はなぜかそれとは逆のことが起こっているのです。なんで太陽は離れるほど熱くなってしまうのでしょうか？ これは長い間、天文学者たちの謎となっていました。新たな研究では、太陽大気元素ごとの挙動を観測し、太陽を取り巻く電磁波の波動がコロナ外層で反射され、音響共振のような状態を形成しているためだからといえます。

それはそうと、先月過ぎ7月7日（七夕）はわがクリニックの開院記念日でした。今年で満18周年でして、19年目を迎えました。早19年も経ったのだと感慨深げに旗揚げ当時を思い出します。私は初代でしたので、クリニックの経営もよくわからないまま、患者さんだけを診ればいというような安易なスタイルで始めたゆえに、当初から人事、医療事務、経理など社労士や会計士をつけていけばよかったと思いますが、医療界のことがだんだんとわかるようになりました。ひとりで大風呂敷広げて、親の七光りなどもなく、これからやっていけるか心配でした。当初患者さんのほとんどが前医だった飯田市立病院から連れてきた患者さんたちでした。それでも200人以上、同病院から連れてきましたから何とかやっていけました。開院から18年間ずっと受診してきてくださる患者さんには感謝しきれません。いつまでも元気で受診してくれればなんて言ったら、なんかおかしい話ですが、さすがに無病息災の患者さんは患者者ではないので、一病息災で通院していただいている患者さんには引き続き元気で長生きしていただきたく、それを応援しています。

しかし、この18年間に市立から連れてきた患者さんの何人かは、いろいろな病気であの世に旅立たれたり、インフラの悪い下伊那だと、遠くから足を運んでくれた患者さんも80歳近くにもなるとどうしても自動車通院

ができないという理由で地元の診療所や病院に紹介したりして、徐々に当時の患者さんは減ってきました。うちを通院できなくなった患者さんの名前をお悔やみ欄で見つけると、その後どんな容態だったのか気になります。ただ今も元気で歩いて通院してくれている90代の患者さんには毎回頭が下がる思いで尊敬のまなざしで診察しています。

今年65歳になりますが、自分の健康状態について敏感にならざるを得ないことも多々あります。患者さんに指導してきたことが全部自分に跳ね返ってきているのです。私は今まで、患者さんの症状を歳のせいにするにはほとんどなかったのですが、最近になり、その人の歳のことを考えず、よく生意気なことを言ってきたかと反省しています。自分よりも年の若い医者から言われたらしようがないと思ってくれていたのでしょう。確かに加齢という現象は何かにつけて身に降りかかるものだということはこの歳になってわかったような気がします。

お待たせ、御嶽海こと久君が久しぶりに名古屋場所で10勝をあげました。「気持ちのいい相撲を取って終わりたい」。14日目、御嶽海は鋭い出足で一気の勝負に出たが、美ノ海に土俵際で体を入れ替えられて押し出された。5敗目を喫し、新大関だった2022年春場所以来となる2桁勝利は千秋楽にお預け。「気持ちのいい相撲を取って終わりたい」と精神面の切り替えを強調した。千秋楽に勝手、報道陣から今場所の2桁勝利に満足感があるかと問われると「ありますよ」と即答しました。「早いうち（10日目）に勝ち越しを決めた後も、自分の相撲を厳しく取ろうと思えた」と、勝つというセリフが違う。なぜそうした心境になったかという問いには、「自然とそうなった」。なんかよくわからないコメントだが、土俵人生の歯車が再びかみ合い始めた様子だと周囲はいうが、信じられません。

振り返れば、久しぶりに2桁の勝ち星を挙げた御嶽海は、初日からの6連勝でいい流れをつくった。張りのある大きな身体で当たり負けせず、前傾姿勢を維持して前に出続けていた。7日目以降に2連敗が2度ありましたが、3連敗は回避し、失速せず星を伸ばした。何よりも自分の相撲を取って勝つんだという気持ちが千秋楽まで続いていました。1場所で幕内に復帰した今場所は、まだまだ頑張れるんじゃないかという期待をファンに抱かせたはず。伊藤平（元大鷲）はいう。「今場所はこういうわけか、左の攻めが中途半端だった。藤ノ川、草野といった新鋭に負けた相撲は、特にそれが目立って

たという。左の使い方としては、差しにいかず、おっつけ一本で攻めた方がいい。あの大きな身体で挟みつけられたら、相手はどうすることもできない。「左の使い方が改善され、稽古でもう少し体が絞られてきたら、横綱、大関と当てられる日も出てくる前頭5、6枚目あたりまで番付を上げられるとみる」。「40歳の玉鷲、35歳の高安がいるから、御嶽海くらいの年齢の力士が全くベテランと思えないのが今の角界だ。「疲れた」といった弱音を吐かず、プロとして道を究めようとする雰囲気醸し出して、来場所以降もしっかりと幕内の土俵を務めてほしい」。 頑張れ！久司！

参議議員選挙が終わり、与党の自公は大敗し、過半数割れになり、今後の内閣閣議決定に影響が出そうです。石破首相は、2025年7月21日に記者会見を開き、参院選での与党の敗北を受けて、続投を正式に表明。彼は「政治には一刻の停滞も許されない」と述べ、国政における責任を果たす意向を示した。特に、米国の関税措置や物価高、自然災害などの課題に対処する必要性を強調。しかし、党内からは退陣を求める声も上がっており、石破首相の求心力は低下し、特に、参院選の結果を受けて、党の刷新を求める意見書が提出されるなど、内部の圧力が高まっています。石破首相は、党内の意見を丁寧に聞きながら対応する姿勢を示していますが、今後の政権運営は困難を伴う可能性がでてきた。

それにしても最近の事件は残虐この上ないことが多いですね。近年、日本国内においても無差別殺傷事件がますます社会的な不安要因となっています。2024年12月に北九州市のファストフード店で発生した、中学3年生の男女2人が殺傷された事件や、2025年1月にJR長野駅前のバスロータリー付近で男女3人が刃物を持った男に襲わ

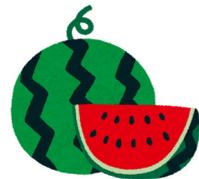
れた事件などは記憶に新しいところ。無差別殺傷事件の加害者には、以下のような共通点が指摘されている。一般的な殺人事件と比較すると、犯行時の年齢層が低めである。交友関係が希薄で、家族関係も良好でないケースが目立つ。低収入、あるいは無職である割合が高い。精神疾患や問題行動の既往歴、特にパーソナリティ障害が指摘される者が多い。こうした背景から、社会とのつながりを持ちにくい環境が犯罪へとつながる可能性があることが示唆されています。犯行の動機は大きく以下の5つの類型に分類され、自己の境遇への不満：社会に対する恨みや人生への絶望感、特定の人物への不満の転嫁：直接のターゲットがいないため、第三者を攻撃、自殺願望の延長：自殺できない焦燥感から死刑を望んで事件を起こす、刑務所への逃避：社会生活の困難さから、刑務所での生活を目的とする、殺人への興味・欲求：人を傷つけること自体に関心を抱く。犯行はすべて単独犯で、計画的なものが多く、被害者の選定には「弱者」を狙う傾向があり、女性・子ども・高齢者が狙われやすい。犯行前に「問題行動」を起こしているケースが多く、特に自殺未遂や医師への相談歴が見られる。時々、うちの患者にも、この若い危ない人だとインスピレーションで感じることもあるから、気を付けないといけません。いつどこで通り魔に会い殺傷されてしまうかもしれないので平和な日本とか飯田なら大丈夫と思っははいけませんね。

それでは皆さんご機嫌よう、さようなら。



まるやまファミリークリニック院長

医学博士 丸山 哲弘



インフルエンザワクチン接種

～夏の暑さの裏で息を潜める脅威～

「インフルエンザワクチン？今まだ8月だよ？」と思ったソコのアナタ！ そんなあなたに、インフルエンザの脅威は既に始まっていることを伝えたい、知って備えて欲しいからこそ、インフルエンザと、ワクチンのお話なのです。

▶既に始まっている!? インフルエンザの流行



昨年を例に2024年7月29日～8月4日、沖縄県内では定点医療機関55所から報告されたインフルエンザ患者は635人で、1地点あたり11.55人に達しました。これは注意報発令基準（10人）を上回る数値で、2024年8月9日に県が「インフルエンザ注意報」を発令しています。

流行の中心地域は本島中南部で、南部保健所管内：定点あたり15.93人、中部保健所管内：12.94人、那覇市保健署管内：12.83人という高い報告数が出ており、これら地域で特に感染拡大が顕著でした。ウイルス型別ではインフルエンザA型が88%を占めており、主にA型の流行だったとみられます。

年齢分布では10歳未満の子どもが患者の45.5%を占め小児感染の傾向が強かったことがわかります。

夏季に沖縄で注意報が発令されるのは2023年に続き2年連続。つまり、夏のインフル流行はここ数年の新しい傾向となっています。

▶インフルエンザワクチンの早期接種の推奨



上文で沖縄でインフルエンザが早期に流行り始める事をお伝えしましたが、長野県で流行する時期より、早めの話です。ですがやはり昨年の長野県は、本州の都府県の中でも最も早く流行が始まったグループの一つです。人口の多い都市部、流行地の沖縄に近い南の方など、理由がある地域を追い越し、長野県が感染数上位に食い込んでいたのは間違いありません。

もちろんインフルエンザワクチンを今すぐ接種しましょうと言う話ではありません。しかし例年は11月や12月に接種していたなら、10月に接種したり、10月に1度目を接種し、12月中に2度目を接種するなど、予想される脅威に備え考えることは自分や家族や身近な人を守る為にごく自然なことだと思われま

す。「ワクチンは発症や重症化を防ぎ、大切な人や社会を守る小さな盾です。」

当院では今シーズンも9月から予約受付、10月から接種を開始する予定です。早割も実施予定！
備え有れば憂い無し！早めの対策恐れなし！ 今年はお早めに当院での接種をご選択ください。